

J A直売所の魅力を相互評価 ～より良い店作りへ意見交換～

J A全農かながわは、6月8、9日にかけて、県下J A直売所担当者による店舗巡回と相互評価を実施した。県内のJ A直売所職員ら17名がJ A直売所9店舗を巡り、接客態度、商品管理、品揃え、サービス、販促資材の活用、情報の発信などを評価シートに添ってチェックした。自分の職場以外のJ A直売所を訪れ、各店舗の良い点、改善すべき点について意見交換を行う事で、自らの店舗運営に役立ててもらおうというもの。また巡回の対象となった店舗には、同じJ A直売所担当者の立場から寄せられた評価や意見を、今後の店づくりの参考にしてもらいたい考え。

参加者は店舗診断用「巡回評価シート」を手に、10項目を採点しながら、各店舗の見習いたい部分や改善すべき点などを、店舗担当者目線や消費者目線で記入した。各店長への質疑応答の際には、「豊富な品揃え」「新鮮な農産物」を用意するための工夫や管理方法、売場レイアウトなど、店舗の運営管理方法について質問する姿が多く見られた。

参加者の多くは、日頃、自店以外のJ A直売所店舗へ行く機会は少ないことから、「特産品や地場野菜の品揃え、売場レイアウトなど、巡回した9店舗それぞれ個性があり、参考になる」と店舗巡回を評価した。参加者のひとは、「(評価シートに記載した)改善点は自分の店舗にも当てはまる事が多い。一方で良い点については、お客様の動線や接客サービスなど、自分の目で確認できた事が良かった」と話した。また「花や野菜の苗、農産物加工品など、地場野菜以外の取扱い商品が、地域色が出ており参考になった」

「姉妹都市提携先の商品を一部で取り扱い、競合店との差別化を図る事は興味深い」など、J A農産物直売所の多様性を実感したようだった。

最近の県下J A直売所の売上や来客数は、野菜価格が安定している事や、催事開催などの努力により好調に推移している。農産総合課では、店舗診断結果を県下J Aの直売所や担当部署で共有し、来客数アップや店舗間の連携強化など、店舗活性化に繋げたい考え。



地場野菜の鮮度や品揃えなどをチェック



商品情報の分かりやすさなど、消費者目線で確認